

安全データシート(SDS 番号:SDSPB0005-1-4)
NanoBind HT 1mL Blood Kit (バッファーCW1)

初回作成日:2025年9月18日
前回改訂日:一年一月一日
最新改訂日:一年一月一日
版番号:第1版

1. 化学品及び会社情報

1.1 化学品の名称

製品名	NanoBind HT 1mL Blood Kit
製品番号	102-762-800
バッファー名	RT(常温保存:15~30°C) バッファーCW1(Buffer CW1)(102-782-600)

1.2 化学品の推奨用途及び使用上の制限

推奨用途	試験研究用実験試薬
使用上の制限	専門ユーザー向け

1.3 提供者の詳細

製造元の会社情報	Pacific Biosciences of California, Inc. 1305 O' Brien Drive, Menlo Park, CA 94025, USA
供給者の会社情報	日本ジェネティクス株式会社 〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目4番14号 後楽森ビル18階 電話番号:03-3813-0961 ファックス番号:03-3813-0962
供給者の緊急時連絡先	電話番号:03-3813-0961 (祝祭日を除く、月曜日から金曜日の午前9時から午後5時30分) Eメール:info@genetics-n.co.jp

2. 危険有害性の要約

2.1 化学品のGHS*分類

危険有害性項目	危険有害性区分/細区分
物理化学的危険性	GHS*分類基準に該当しない。
健康に対する有害性	GHS*分類基準に該当しない。
環境に対する有害性	
水生環境有害性 短期(急性)	区分:3
水生環境有害性 長期(慢性)	区分:3

2.2 GHS*ラベル要素

絵表示又はシンボル	GHS*分類基準に該当しない。
注意喚起語	GHS*分類基準に該当しない。
危険有害性情報	
物理的危険性	物理的危険性のある物質又は混合物ではない。
健康有害性	健康有害性のある物質又は混合物ではない。
環境有害性	H402:水生生物に有害 H412:長期継続的影響によって水生生物に有害

安全データシート(SDS 番号:SDSPB0005-1-4)
NanoBind HT 1mL Blood Kit (バッファーCW1)

注意書き	
安全対策	P273: 環境への放出を避けること。
応急措置	危険有害性のある物質又は混合物ではない。
保管	危険有害性のある物質又は混合物ではない。
廃棄	P501: 内容物/容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに業務を委託して処理すること。

2.3 GHS*分類に該当しない、又は GHS*で扱われない他の危険有害性

NFPA*の表示システム(0-4)	H(健康危険性):-、F(燃焼危険性):-、R(反応危険性):-、特定の危険:-
HMIS*の表示システム(0-4)	健康障害の危険:-、火災の危険:-、反応性:-、特定の危険:-
PBT*又はvPvB*特性	情報なし

3. 組成及び成分情報

3.1 化学物質・混合物の区別

単一製品・混合物の区別	混合物(下記を含む水溶液)
-------------	---------------

3.2 化学名又は一般名

	化学名又は一般名	CAS*番号	濃度又は濃度範囲
①	グアニジン塩酸塩(塩化グアニジニウム) Guanidine Hydrochloride (Guanidinium Chloride)	50-01-1	7.2%
②	ポリ(オキシエチレン)＝オクチルフェニルエーテル(トライトン X-100) Poly(oxyethylene)Octylphenyl Ether (Triton X-100)	N/A	<1%
③	エチレンジアミン四酢酸(1,2-ビス(N,N-ジカルボキシメチルアミノ)-エタン) EDTA (Ethylenediaminetetraacetic Acid)	60-00-4	<0.1%
注 意	危険有害性のない成分の組成及び正確な濃度は、企業秘密として非公開が認められています。		
	残りの成分は、非危険有害性物質であると見なされ、開示義務の限度を下回る量で存在します。		

4. 応急措置

4.1 応急措置

一般的アドバイス	必要な措置をとるために、この SDS を担当医に見せること。
暴露経路ごとの応急処置	
吸入した場合	患者を空気の新鮮な場所に移すこと。
皮膚に付着した場合	皮膚を石鹼と水で洗うこと。
眼に入った場合	可能であれば事前にコンタクトレンズを外し、瞼を広げて眼を流水で少なくとも 15 分間注意深く洗うこと。その後も洗浄を続けること。洗っている間は、眼を大きく広げたままにすること。医師に相談すること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。

4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候	長期にわたり接触すると発赤及び刺激を引き起こす恐れがある。
---------------------	-------------------------------

4.3 その他の情報

医師への注意事項	症状に応じて治療すること。
----------	---------------

安全データシート(SDS 番号:SDSPB0005-1-4)
NanoBind HT 1mL Blood Kit (バッファーCW1)

5. 火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤	現地の状況及び周囲環境に適した消火方法を用いること。
不適切な消火剤	情報なし
特有の消火方法	水噴霧で容器を冷却すること。

5.2 火災時特有の危険有害性

危険有害性	情報なし
有害燃焼副産物	情報なし

5.3 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

消火を行う者の保護	消火を行う者は自給式呼吸器(SCBA)及び消火活動用の完全装備を着用すること。
	個人用保護具を使用すること。
予防措置	データなし

5.4 その他の情報：警告。放水では十分な消火の効果を得られない場合がある。

6. 漏出時の措置

6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

注意事項	十分換気されているか確認すること。
	皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。
保護具	項目 8 で推奨されている個人用保護具を着用すること。
緊急時措置	人員を安全な区域に退避させること。

6.2 環境に対する注意事項

環境に対する注意事項	項目 12 を参照すること。
------------	----------------

6.3 封じ込め及び浄化の方法・機材

封じ込め方法	安全に対処できるならば、それ以上の漏洩又は漏出を防ぐこと。
浄化、回収、中和方法	回収して適切に表示された容器に移すこと。
二次災害の防止策	汚染された物体及び区域を環境規則に従って十分に浄化すること。

6.4 その他の情報：項目 7 及び項目 8 に記載されている保護措置を参照すること。処分については項目 13 を参照すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

7.1 取扱い

安全取扱注意事項	産業衛生安全対策規範に従って取り扱うこと。
接触回避	情報なし

7.2 保管

安全な保管条件	容器を密閉して、乾燥した涼しく換気の良い場所に保管すること。
混触危険物質との分離	項目 10 を参照すること。

7.3 その他の情報：特定の最終用途は、項目 1.2 を参照すること。

安全データシート(SDS 番号:SDSPB0005-1-4)
NanoBind HT 1mL Blood Kit (バッファーCW1)

8. 暴露防止及び保護措置

8.1 管理指標

暴露限界(日本産業衛生学会)	データなし
ACGIH*暴露限界	データなし
生物学的暴露規制(BEI*)	データなし

8.2 設備対策

暴露を軽減するための設備対策	シャワー、洗眼場、換気システムを設けること。
----------------	------------------------

8.3 保護具

呼吸用保護具	この製品の化学的性質、危険有害性及び使用法、ならびに現地当局の安全要件に従って適切な呼吸用保護具を選択し、着用すること。暴露限度を超えるか刺激が生じる場合には、換気及び排気を行うこと。
手の保護具	この製品の化学的性質、危険有害性及び使用法、ならびに現地当局の安全要件に従って適切な呼吸用保護具を選択し、着用すること。
眼及び/又は顔面の保護具	この製品の化学的性質、危険有害性及び使用法、ならびに現地当局の安全要件に従って適切な眼/顔面の保護具を選択し、着用すること。
皮膚及び身体の保護具	この製品の化学的性質、危険有害性及び使用法、ならびに現地当局の安全要件に従って適切な皮膚及び身体の保護具を選択し、着用すること。

8.4 その他の情報：特になし

9. 物理的及び化学的性質

9.1 物理的及び化学的性質の情報

物理状態(外観/形状)	液体
色	無色透明
臭い	無臭
臭いの閾値	データなし
融点/凝固点(軟化温度/範囲)	データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	データなし
可燃性(液体)	データなし
爆発下限界及び爆発上限界/ 可燃限值	データなし
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	7~8.5
動粘性率	データなし
溶解度(水溶性)	データなし
n-オクタノール/水分係数(log 値)	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び/又は相対密度	データなし
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

9.2 その他の情報：特になし

安全データシート(SDS 番号:SDSPB0005-1-4)
NanoBind HT 1mL Blood Kit (バッファーCW1)

10. 安定性及び反応性

反応性	指示に従って使用及び保管した場合には危険な反応は報告されていない。
化学的安定性	指示に従って使用及び保管した場合には化学的に安定している。
危険有害反応の可能性	指示に従って使用及び保管した場合の危険有害反応は知られていない。
避けるべき条件	データなし
混触危険物質	データなし
危険有害な分解生成物	データなし
その他の情報	静電気放電や機械的衝撃による爆発性はない。

11. 有害性情報

混合物としての試験データの他、各成分(原体)の有害性情報を以下に示す。

11.1 有害性情報

11.1.1 NanoBind HT 1mL Blood Kit (バッファーCW1)

急性毒性	ATEmix*(経口) : 10,804.50 mg/kg
	ATEmix*(経皮) : 99,999.00 mg/kg
	ATEmix*(吸入 - ガス) : 99,999.00 ppm
	ATEmix*(吸入 - 蒸気) : 99,999.00 mg/L
	ATEmix*(吸入 - 粉じん/ミスト) : 99,999.00 mg/L
皮膚腐食性/皮膚刺激性	利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。区分に該当しない。軽度の皮膚刺激。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。区分に該当しない。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。分類できない。
生殖細胞変異原性	利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。分類できない。
発がん性	利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。分類できない。
生殖毒性	利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。分類できない。
特定標的臓器毒性(単回暴露)	利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。分類できない。
特定標的臓器毒性(反復暴露)	利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。分類できない。
誤嚥有害性 (吸引性呼吸器有害性)	利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。分類できない。

11.1.2 グアニジン塩酸塩

危険有害性項目	分類結果	分類根拠・問題点
急性毒性(経口)	区分 4	ラット LD ₅₀ *値 1120mg/kg、908mg/kg(推)、774mg/kg(雌)(IUCLID*(2000))が全て区分 4 に該当している。
急性毒性(経皮)	区分外	ウサギの LD ₅₀ *値が >2000 mg/kg(IUCLID*(2000))により区分外とした。
急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外	GHS*の定義における固体である。
急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない	データなし。
急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)	区分外	ラットの LC ₅₀ *値が 5.319 mg/L(IUCLID* 2000)より、区分外とした。
皮膚腐食性/皮膚刺激性	区分 2	ウサギを用いた試験(EPA*ガイドライン)により「強い刺激性(highly irritating)」を示し(IUCLID*(2000))、さらに EU 分類において Xi; R36/38 であることから、区分 2 とした。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 2A	ウサギを用いた試験(EPA*ガイドライン)において、刺激性(irritating)を示し(IUCLID*(2000))、さらに EU 分類において Xi; R36/38 であることから、区分 2A とした。
呼吸器感作性	分類できない	データなし。
皮膚感作性	分類できない	モルモットを用いた皮膚感作性試験(Buehler Test)(EPA*ガイドライン)において感作性なしの記載(not sensitizing)(IUCLID*(2000))があるが、List 2 のデータであるため分類できないとした。

安全データシート(SDS 番号:SDSPB0005-1-4)
NanoBind HT 1mL Blood Kit (バッファーCW1)

生殖細胞変異原性	分類できない	in vivo 変異原性試験のデータがなく分類できない。なお、エームス試験(in vitro 変異原性試験)では陰性結果(IUCLID*(2000))が得られている。
発がん性	分類できない	データなし。
生殖毒性	分類できない	データなし。
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	分類できない	データなし。
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	分類できない	データなし。
誤嚥有害性 (吸引性呼吸器有害性)	分類できない	データなし。

11.1.3 ポリ(オキシエチレン)オクチルフェニルエーテル(Triton X-100)

危険有害性項目	分類結果	分類根拠・問題点
急性毒性(経口)	分類できない	データなし。
急性毒性(経皮)	分類できない	データなし。
急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外	GHS*の定義における液体である。
急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない	データなし。
急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)	分類できない	データなし。
皮膚腐食性/皮膚刺激性	分類できない	データなし。
眼に対する重篤な損傷性/ 眼刺激性	区分 2A	ウサギの眼に試験物質の 10%液を 0.1 mL 適用した試験(OECD* TG405)において、刺激性(角膜混濁、虹彩炎、結膜の発赤と浮腫)が認められたが、症状は全て適用後 7~21 日にほぼ回復し、MMAS (AOIに相当)= 68.7であった(ECETOC* TR 48(2)(1998))ことに基つき、区分 2A とした。
呼吸器感受性	分類できない	データなし。
皮膚感受性	分類できない	データなし。
生殖細胞変異原性	分類できない	データなし。
発がん性	分類できない	データなし。
生殖毒性	分類できない	データなし。
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	分類できない	データなし。
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	分類できない	データなし。
誤嚥有害性 (吸引性呼吸器有害性)	分類できない	データなし。

11.1.4 エチレンジアミン四酢酸(EDTA)

危険有害性項目	分類結果	分類根拠・問題点
引火性液体	区分外	ラットの LD ₅₀ * 値は >2000 mg/kg(EU-RAR* 49(2004))、2580、4500 mg/kg(以上、NITE* 初期リスク評価書 Ver.1.1, 14(2007))に基つき、JIS* 分類基準の区分外(国連分類基準の区分 5)とした。
急性毒性(経口)	分類できない	データなし。
急性毒性(経皮)	分類対象外	GHS*の定義における固体である。
急性毒性(吸入:ガス)	分類できない	データなし。
急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない	データ不足で分類できない。なお、20 及び 80°Cにおける微粉末飽和状態で 8 時間吸入で死亡例なし(NITE* 初期リスク評価書 Ver.1.1, 14(2007))との報告がある。
急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)	区分外	ウサギのドレイズ試験で刺激性なしとの報告(NITE* 初期リスク評価書 Ver.1.1, 14(2007))、および別の試験ではウサギ 1 匹を用い、耳介に 20 時間適用し 24 時間後の観察で軽度の刺激性(mild irritating)との報告(EU-RAR* 49(2004))に基つき、区分外とした。
皮膚腐食性/皮膚刺激性	区分外	ラットの LD ₅₀ * 値は >2000 mg/kg(EU-RAR* 49(2004))、2580、4500 mg/kg(以上、NITE* 初期リスク評価書 Ver.1.1, 14(2007))に基つき、JIS* 分類基準の区分外(国連分類基準の区分 5)とした。
眼に対する重篤な損傷性/ 眼刺激性	区分 2B	ウサギの眼に 50 mg を適用した試験で、強い刺激、軽度の浮腫、強い角膜混濁が見られたが、8 日後に症状は消失したとの記述(EU-RAR* 49(2004))に基つき、区分 2B とした。

安全データシート(SDS 番号:SDSPB0005-1-4)
NanoBind HT 1mL Blood Kit (バッファーCW1)

呼吸器感作性	分類できない	データなし。
皮膚感作性	分類できない	データなし。なお、本物質の二ナトリウム塩について、モルモットのマキシマイゼーション試験(OECD* TG406)において、24時間後の一回目の惹起で30%(3/10)、7日後の二回目の惹起で10%(1/10)の陽性率を示し(EU-RAR* 49(2004))、別のモルモットのマキシマイゼーション試験では感作性なしと報告されている(NITE* 初期リスク評価書 Ver.1.1, 14(2007))。
生殖細胞変異原性	区分外	本物質の二ナトリウム塩を用いた in vivo 試験として、マウス飲水投与による優性致死試験(生殖細胞 in vivo 経世代変異原性試験)、マウス腹腔内投与による精原細胞を用いた染色体異常試験(生殖細胞 in vivo 変異原性試験)、マウス経口投与および腹腔内投与による骨髄を用いた小核試験(体細胞 in vivo 変異原性試験)で、いずれも陰性結果が得られている(全て、EU-RAR* 49(2004))ことに基づき区分外とした。また、in vitro 試験では、本物質を用いたエームス試験で陰性、マウスリンフォーマ試験で陽性、本物質の三ナトリウム塩を用いたエームス試験とマウスリンフォーマ試験で陰性の結果がある(EU-RAR* 49(2004)、安衛法 変異原性データ集 補遺2版(2000))。なお、本物質によるマウスの骨髄細胞および脾臓細胞を用いた染色体異常試験(体細胞 in vivo 変異原性試験)で陽性(NITE* 初期リスク評価書 Ver.1.1, 14(2007))の報告があるが、この試験については投与経路や用量等の試験の詳細が不明または結果の再現性に疑問があるとの専門家の判断により分類の根拠としなかった。
発がん性	分類できない	データなし。なお、本物質の三ナトリウム塩を用いたラット及びマウスによる103週間混餌投与試験でラット、マウスのいずれも投与に関連する腫瘍の発生はなかったが、最大耐量までの用量の試験ではなかったとの記述(EU-RAR* 49(2004))がある。
生殖毒性	区分2	ラットの妊娠 7-14 日に強制経口投与により親動物で死亡、下痢、行動抑制等の影響がみられた用量で、仔に対しては影響なかった(NITE* 初期リスク評価書 Ver.1.1, 14(2007))との報告の一方、親動物の一般毒性について記載はないが、ラットの妊娠 6 日以降に混餌投与した試験で、仔に口蓋裂、脳と眼の欠損、および骨格異常が生じた(Teratogenic(12th, 2007))と報告され、さらに妊娠ラットに腹腔内または筋肉内投与した場合にも仔に奇形の発生が報告されている(NITE* 初期リスク評価書 Ver.1.1, 14(2007)、JECFA* 796(1993))ことから、区分2とした。
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	分類できない	データなし。なお、関連物質のヒトへの影響として、鉛中毒解毒剤として EDTA 二ナトリウム塩(Na ₂ EDTA)を静脈内投与した場合の急性的症状としては手と口の周辺に現れる、しびれとヒリヒリ感が報告されている(NITE* 初期リスク評価書 Ver.1.1, 14(2007))。
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	区分1(腎臓)	ヒトに対する影響として、EDTA 及びその塩(ナトリウム、カルシウム二ナトリウム)を長期にわたり多量経口摂取した場合、腎臓尿細管障害がみられるとの記述(NITE* 初期リスク評価書 Ver.1.1, 14(2007))から、区分1(腎臓)とした。なお、関連物質の CaNa ₂ EDTA 製剤は鉛中毒の解毒剤として市販され、副作用情報において錠剤では長期投与により尿細管障害、点滴注射剤では一過性蛋白尿、長期投与により尿細管障害の記載があり、その他の注意事項として、急速、大量投与の結果、腎毒性により死亡等の重大な結果を招くことがあるとされている(環境省リスク評価 第3巻(2004))。
誤嚥有害性 (吸引性呼吸器有害性)	分類できない	データなし。

11.2 その他の情報：特になし

安全データシート(SDS 番号:SDSPB0005-1-4)
NanoBind HT 1mL Blood Kit (バッファーCW1)

12. 環境影響情報

混合物としての試験データはないため、各成分(原体)の有害性情報を以下に示す。

12.1 生態毒性

12.1.1 グアニジン塩酸塩

危険有害性項目	分類結果	分類根拠・問題点
水生環境有害性 短期(急性)	分類できない	データなし。
水生環境有害性 長期(慢性)	分類できない	データなし。
オゾン層への有害性	分類できない	データなし。

12.1.2 ポリ(オキシエチレン)オクチルフェニルエーテル(Triton X-100)

危険有害性項目	分類結果	分類根拠・問題点
水生環境有害性 短期(急性)	区分 2	魚類(ブルーギル)の 96 時間 LC ₅₀ * = 3 mg/L(ECETOC* TR91, 2003) から区分 2 とした。
水生環境有害性 長期(慢性)	区分 2	急性毒性区分 2 であり、急速分解性がない(BIOWIN)ことから区分 2 とした。
オゾン層への有害性	分類できない	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていないため。

12.1.3 エチレンジアミン四酢酸(EDTA)

危険有害性項目	分類結果	分類根拠・問題点
水生環境有害性 短期(急性)	区分 3	魚類(ブルーギル)の 96 時間 LC ₅₀ * = 41 mg/L(EU-RAR*, 2005 他) から、区分 3 とした。
水生環境有害性 長期(慢性)	区分 3	慢性毒性データを用いた場合、急速分解性がないが(4 週間での BOD*による分解度:0%(既存点検, 1994))、甲殻類(オオミジンコ)の 21 日間 NOEC* = 5.5 mg/L(環境省生態影響試験, 2002 他)であることから、区分外となる。 慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、急速分解性がなく(4 週間での BOD*による分解度: 0%(既存点検, 1994))、魚類(ブルーギル)の 96 時間 LC ₅₀ * = 41 mg/L(EU-RAR*, 2005 他)であることから、区分 3 となる。 以上の結果を比較し、区分 3 とした。
オゾン層への有害性	分類できない	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていないため。

12.2 残留性・分解性

残留性	データなし	
分解性	易生分解性試験(淡水系) ・試験法: OECD*テストガイドライン(TG301B)	生分解性: データなし
	生分解性試験(海水系) ・試験法: OECD*テストガイドライン(TG306)	生分解性: データなし
	急速分解性の指標 ・BOD*(5 日間)/COD*比	急速分解性: データなし

12.3 生物蓄積性

生物蓄積性	魚類での生物蓄積性: 水暴露法及び餌料投与法 ・試験法: OECD*テストガイドライン(TG305)	BCF*: データなし BMF*: データなし BAF*: データなし
	オクタノール/水分配係数測定試験 ・フラスコ振盪法: OECD*テストガイドライン(TG107) ・HPLC 法: OECD*テストガイドライン(TG117) ・緩慢撈拌法: OECD*テストガイドライン(TG123)	log Kow: データなし log Pow: データなし log Pow/log Kow*: データなし

12.4 土壌中の移動性

吸着試験	データなし
浸出試験	データなし
Log Koc(土壌吸着係数)	データなし

安全データシート(SDS 番号:SDSPB0005-1-4)
NanoBind HT 1mL Blood Kit (バッファーCW1)

12.5 他の有害影響

オゾン層への有害性	分類できない。利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。
-----------	---------------------------------

13. 廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

製品及び残余廃棄物	内容物/容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに業務を委託して処理すること。
	廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託すること。
	環境への放出を避けること。
汚染容器及び包装	空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
	完全に空でない場合は、製品入り容器と同様に処分すること。
	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行うこと。

13.2 その他の情報：特になし

14. 輸送上の注意

14.1 国際規制

国連番号 (UN Number)	輸送規制の対象ではない。
国連出荷正式名(国連出荷名) (UN Proper Shipping Name)	輸送規制の対象ではない。
国連分類 (輸送時の危険有害性クラス) (UN Transport Hazard Class)	輸送規制の対象ではない。
容器等級 (Packing Group)	輸送規制の対象ではない。
環境への危険性	環境上危険物として規制されていない。
ユーザー向け特別注意事項	ADR*/RID*(陸上規制)、ADN*(内陸水路規制)、IMO*/IMDG-Code*(海上規制)、ICAO*/IATA-DGR*(航空規制)で規制された危険物ではない

14.2 国内規制

海上規制情報	船舶安全法の規定に従うこと。
航空規制情報	航空法の規定に従うこと。
陸上規制情報	毒物及び劇物取締法、消防法、高圧ガス保安法、道路法の規定に従うこと。

14.3 MARPOL 73/78* 付属書 II 及び IBC Code* によるばら積み輸送される液体物質：本製品には該当しない。

15. 適用法令

15.1 グアニジン塩酸塩 (CAS*番号:50-01-1、濃度:7.2%)

化審法	非該当
PRTR 法	非該当
労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険物及び有害物(令和 8 年 4 月施行予定) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(令和 8 年 4 月施行予定)
毒物及び劇物取締法	非該当
消防法	非該当
廃掃法	産業廃棄物
麻薬及び向精神薬取締法	非該当
覚醒剤取締法	非該当

安全データシート(SDS 番号:SDSPB0005-1-4)
NanoBind HT 1mL Blood Kit (バッファーCW1)

薬機法	非該当
カルタヘナ法	非該当
火薬類取締法	非該当
高圧ガス保安法	非該当
化学兵器禁止法	非該当
大気汚染防止法	非該当
オゾン層保護法	非該当
悪臭防止法	非該当
ダイオキシン類対策特別措置法	非該当
水質汚濁防止法	非該当
下水道法	非該当
水道法	水質基準
海洋汚染防止法	非該当
航空法	非該当
船舶安全法	非該当
港則法	非該当
道路法	非該当
労働基準法	非該当
農薬取締法	非該当
土壌汚染対策法	非該当
水銀汚染防止法	非該当
地球温暖化対策推進法	非該当
フロン排出抑制法	非該当

15.2 ポリ(オキシエチレン)オクチルフェニルエーテル (CAS*番号:9002-93-1、濃度:<1%)

化審法	非該当
PRTR法	第一種指定化学物質
労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険物及び有害物(令和8年4月施行予定) ⇒<1%のため適用除外 名称等を通知すべき危険物及び有害物(令和8年4月施行予定) ⇒<1%のため適用除外
毒物及び劇物取締法	非該当
消防法	第4類引火性液体、第3石油類水溶性液体⇒≤40%のため適用除外
廃掃法	産業廃棄物
麻薬及び向精神薬取締法	非該当
覚醒剤取締法	非該当
薬機法	非該当
カルタヘナ法	非該当
火薬類取締法	非該当
高圧ガス保安法	非該当
化学兵器禁止法	非該当
大気汚染防止法	非該当
オゾン層保護法	非該当
悪臭防止法	非該当
ダイオキシン類対策特別措置法	非該当
水質汚濁防止法	非該当
下水道法	非該当
海洋汚染防止法	非該当
航空法	非該当
船舶安全法	非該当

安全データシート(SDS 番号:SDSPB0005-1-4)
NanoBind HT 1mL Blood Kit (バッファーCW1)

港則法	非該当
道路法	非該当
労働基準法	非該当
農薬取締法	非該当
土壌汚染対策法	非該当
水銀汚染防止法	非該当
地球温暖化対策推進法	非該当
フロン排出抑制法	非該当

15.3 エチレンジアミン四酢酸(EDTA) (CAS*番号:60-00-4、濃度:<0.1%)

化審法	優先評価化学物質
PRTR 法	第一種指定化学物質⇒<1%のため適用除外
労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険物及び有害物⇒<1%のため適用除外 名称等を通知すべき危険物及び有害物⇒<0.1%のため適用除外
毒物及び劇物取締法	非該当
消防法	非該当
廃掃法	産業廃棄物
麻薬及び向精神薬取締法	非該当
覚醒剤取締法	非該当
薬機法	非該当
カルタヘナ法	非該当
火薬類取締法	非該当
高圧ガス保安法	非該当
化学兵器禁止法	有機化学物質
大気汚染防止法	有害大気汚染物質に該当する可能性がある物質
オゾン層保護法	非該当
悪臭防止法	非該当
ダイオキシン類対策特別措置法	非該当
水質汚濁防止法	非該当
下水道法	非該当
水道法	非該当
海洋汚染防止法	非該当
航空法	毒物類(毒物)
船舶安全法	毒物類(毒物)
港則法	非該当
道路法	非該当
労働基準法	非該当
農薬取締法	非該当
土壌汚染対策法	非該当
水銀汚染防止法	非該当
地球温暖化対策推進法	非該当
フロン排出抑制法	非該当

安全データシート(SDS 番号:SDSPB0005-1-4) NanoBind HT 1mL Blood Kit (バッファーCW1)

16. その他の情報

弊社が販売する試薬類は、試験研究用途向けに限定して販売しております。製品を取り扱う前に取扱説明書等を熟読し、専門知識のある技術者、研究者がご使用ください。本 SDS 情報は、徹底的な調査及び/または研究によって得られたものであり、推奨は専門的判断の慎重な適用に基づいています。また包括的のみならず、ガイドとしてのみ使用されるべきものです。全ての物質及び混合物には、未知の危険性があるため注意して使用する必要があります。当社では、実際の方法、量、使用条件等を管理することができないため、本書に記載されている取扱いまたは製品との接触に起因する損害賠償責任は一切負いません。本 SDS の情報は、市場性や特定目的適合性の黙示の保証を含め、明示的にも黙示的にもいかなる保証をするものではなく、また品質を特定するものでもありません。

略語

- ACGIH (American Conference of Governmental Industrial Hygienists): 米国産業衛生専門家会議
- ADN (European Agreement Concerning the International Carriage of Dangerous Goods by Inland Waterways): 危険物の内陸水路による国際輸送に関する欧州協定
- ADR (European Agreement Concerning the International Carriage of Dangerous Goods by Road): 欧州危険物国際道路輸送協定(道路での危険物の国際輸送に関する欧州協定)
- ATEmix (Acute Toxicity Estimate of the Mixture): 混合物の急性毒性値又は、急性毒性推定値の両方を指す。
- BAF (Bioaccumulation Factor): 生物濃縮係数(水及び餌)
- BCF (Bioconcentration Factor): 生物濃縮係数
- BEI (Biological Exposure Indices): 米国産業衛生専門家会議(ACGIH)の勧告値である生物学的暴露指標
- BMF (Biomagnification Factor): 生物濃縮係数(餌)
- BOD (Biochemical Oxygen Demand): 生物化学的酸素要求量(排水中の有機物量の指標)
- CAS (Chemical Abstract Service): ケミカル・アブストラクト・サービス
- COD (Chemical Oxygen Demand): 化学的酸素要求量
- ECETOC (European Centre for Ecotoxicology and Toxicology of Chemicals): 欧州化学物質生態毒性及び毒性センター
- EPA (Environmental Protection Agency): 米国環境保護庁
- EU-RAR (EU Risk Assessment Report): EU リスク評価書(EECNo793/93 に基づく一般工業用化学物質に対する EU のリスク評価書)
- GHS (Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals): 化学品の分類及び表示に関する世界調和システム
- HMIS (Hazardous Materials Identification System): 危険有害物質識別システム
- IATA-DGR (International Air Transport Association's Dangerous Goods Regulations): 国際航空運送協会危険物規則書
- IBC Code (International Code for the Construction and Equipment of Ships Carrying Dangerous Chemicals in Bulk): 危険化学品のバラ積み運送のための船舶の構造及び設備に関する国際規則
- ICAO (International Civil Aviation Organization): 国際民間航空機関
- IMDG-Code (International Maritime Dangerous Goods Code): 国際海上危険物規程で定めたコード
- IMO (International Maritime Organization): 国際海事機構
- IUCLID (International Uniform Chemical Information Database): 国際統一化学物質情報データベース
- JECFA (FAO/WHO Joint Expert Committee on Food Additives): 国連の FAO/WHO 合同食品添加物専門家会議
- JIS (Japanese Industrial Standards): 日本産業規格
- LC₅₀ (Lethal Concentration 50% kill, Median Lethal Concentration): 半数(50%)致死濃度
- LD₅₀ (Median Lethal Dose): 半数致死量
- log Pow/log Kow (octanol/water partition coefficient as logarithm): オクタノール/水分係数の指数値
- MARPOL (International Convention for the Prevention of Marine Pollution from Ships) 73/78: マルポール条約/1973 年の船舶による汚染の防止のための国際条約に関する 1978 の議定書("MARPOL"=marine pollution/海上汚染)
- NFPA (The National Fire Protection Association): 全米防火協会
- NITE (National Institute of Technology and Evaluation): 独立行政法人 製品評価技術基盤機構
- NOEC (No Observed Effect Concentration): 無影響濃度(複数の投与用量群を用いた毒性試験において、投与物質による影響が観察されなかった最高の濃度)
- OECD (Organisation for Economic Co-operation and Development): 経済協力開発機構
- PBT (Persistent, Bio-accumulative and toxic): 難分解性、生物蓄積性、毒性を示す性質あるいは物質
- RID (Regulations Concerning the International Carriage of Dangerous Goods by Rail): 欧州危険物国際鉄道輸送規則
- vPvB (very Persistent and very Bio-accumulative) Substances: 極難分解性、極生物蓄積性を示す性質あるいは物質

引用文献及び参照ホームページ等

- JIS Z 7252: GHS に基づく化学品の分類方法
- JIS Z 7253: GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS)
- 化学物質規制・管理実務便覧(化学物質管理実務研究会編集、新日本法規出版株式会社出版)
- NITE 化学物質総合情報提供システム(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)
- ezCRIC+ (日本ケミカルデータベース株式会社)

以上